

## 令和5年度宮城県原子力防災訓練の概要

### 1 目的

- (1) 原子力災害発生時における関係機関の防災体制や相互連携に係る実効性の確認
- (2) 各種計画やマニュアル等に基づく手順の確認
- (3) 関係機関やその要員における原子力防災技術の向上
- (4) 女川地域の緊急時対応を検証し、訓練結果を踏まえた教訓事項の抽出・改善

### 2 日時

令和6年1月20日（土） 午前8時から午後3時頃まで

### 3 主催

宮城県、女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町

### 4 訓練項目

住民避難等訓練

### 5 重点事項

#### (1) 「女川地域の緊急時対応」等に基づく手順の確認・検証

「女川地域の緊急時対応」に取りまとめられた避難計画等に基づく、防護措置について実施手順の確認や検証を行う。

例：鮎川港～塩釜港の海路避難から陸路避難も含めた避難先までの経路を確認

#### (2) 複合災害時（感染症含む）の対応の確認と実動機関との連携体制の確認

東日本大震災の経験を踏まえ、複合災害時を想定し、初動対応、避難所や避難経路の確保、実動機関との連携等について、情報伝達方法や対応手順を確認する。また、避難所の運営等における感染症流行時の防護対策を検証する。

例：県災害対策本部とオフサイトセンター間の連絡調整に係る手順確認・検証

#### (3) デジタル技術の活用による避難円滑化の推進

住民避難等の際にデジタル技術を活用することで、避難実施の円滑化を図る。

例：避難支援アプリによる屋内退避、避難先等の通知

#### (4) 原子力災害に関する住民の理解促進

屋内退避・避難等の防護措置の実践や、わかりやすい資料の提示・説明により、その重要性や手順等について住民理解の促進を図る。

例：屋内退避訓練、避難訓練等への参加

## 6 実施概要

- (1) 住民参加人数 約250人
- (2) 参加機関 国、県、警察本部、関係7市町、自衛隊など18機関
- (3) 今年度訓練の特徴

今年度から運用を開始した避難支援アプリを活用し、行政からのプッシュ通知送信、避難所受付など、住民にアプリを操作する機会を提供するとともに、県職員等関係機関における手順を確認する。

## 7 想定

### (自然災害)

三陸沖において地震が発生し、県内の広い範囲で震度5強～6強を観測（女川町及び石巻市で震度6強）。その直後に大津波警報が発表され、各地域にて避難者が多数発生。土砂災害により孤立地域が発生した。

### (原子力災害)

自然災害発生後、大津波警報発令に伴い、定格熱出力運転中の女川原子力発電所2号機を緊急停止。外部電源の喪失、機器故障によって原子炉注水機能を喪失し、全面緊急事態に至る。

その後、炉心が損傷し、放射性物質が放出され、特定の地点において一時移転が必要な空間放射線量率の上昇が認められた状況になった。

# 令和5年度原子力防災訓練 PAZ・準PAZの住民避難訓練等

※時間は想定です。



図中の写真は、陸上自衛隊、第二管区海上保安本部の各HPから引用しています。

# 令和5年度原子力防災訓練 UPZの住民避難訓練等

※時間は想定です。

